

XII 花き類（非食用）

1. き く

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	発病初期	5回以内	
3	アンビルフロアブル	散布	発病初期	7回以内	
M2	クムラス	散布	-	-	
3	サプロール乳剤	散布	-	5回以内	
31	スターナ水和剤	散布	-	5回以内	
M3	ステンレス	散布	-	8回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	発病初期	3回以内	(黒斑病は参考農薬)
M5	ダコニール1000	散布	-	6回以内	
3	チルト乳剤25	散布	発病初期	3回以内	
3	トリフミン乳剤	散布	-	5回以内	
19	ポリオキシシAL水溶剤	散布	発病初期	8回以内	(黒斑病は花き類・観葉植物登録)
3	マネージ乳剤	散布	発病初期	6回以内	
3	ラリー乳剤	散布	発病初期	5回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M10	モレスタン水和剤	散布	発病初期	10回以内	花き類・観葉植物(カーネーションを除く)

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤーフロアブル	散布	発生初期	5回以内	(施設栽培)
1	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物
-	オレート液剤	散布	発生初期～収穫前日まで	-	
1	オンコル粒剤1	植穴土壌混和	定植時	1回	
21	サンマイルフロアブル	散布	-	2回以内	
21	ハチハチ乳剤	散布	発生初期	4回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	発生初期	4回以内	花き類・観葉植物
4	ベストガード水溶剤	散布	発生初期	4回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アーデント水和剤	散布	発生初期	5回以内	
3	アグロスリン乳剤	散布	発生初期	6回以内	
6	アフーム乳剤	散布	発生初期	5回以内	(オオタバコガは花き類・観葉植物登録)
11	エスマルクDF	散布	発生初期	-	
1	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5回以内	
1	ガードホープ液剤	土壌灌注	生育期	2回以内	
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	
1	ガゼット粒剤	株元散布又は植穴土壌混和	定植時	3回以内	
20	カネマイルフロアブル	散布	-	1回	
13	コテツフロアブル	散布	発生初期	2回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	-	5回以内	花き類・観葉植物(宿根かすみそう、グラジオラス、トルコギキョウ、りんどうを除く)
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	発生初期	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	-	6回以内	
4	ダントツ粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	
10	ニッソラン水和剤	散布	-	2回以内	花き類・観葉植物

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
21	ピラニカEW	散布	発生初期	1回	
28	フェニックス顆粒水和剤	散布	発生初期	4回以内	
4	バストガード粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	
4	モスピラン粒剤	株元散布	生育初期	1回	
18	ロムダンフロアブル	散布	発生初期	5回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
わい化病 (CSVd) (O)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。 2. 3年以上の連作を避ける。 3. 発病後は必ず品種を更新する。	1. 摘蕾や切り花作業時に、接触、刃物により汁液伝染する。
えそ病 (TSWV) 茎えそ病 (CSNV) (V)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。	1. いずれのウイルスもアザミウマ類により媒介される。 2. 両病害の病徴は類似しているが、TSWVには簡易診断キットが市販されているので、それを用いて診断可能である。
	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、育苗時の感染に厳重注意する。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で被覆すると侵入を軽減できる。また、アザミウマ類の項、又は「25.花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り埋却する。	
白さび病 (F)	育 苗 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. サプロール乳剤1,000倍液を散布する。 3. ほ場衛生の向上に取り組む。	1. 育苗中の薬剤防除は予防に重点をおく。 2. 地下芽(うど芽)を用いる。
	ほ 場 期 間 夏 ぎ く 8月咲きぎく 9月咲きぎく 秋 ぎ く	1. 多発ほ場では、連作を避ける。 2. アンピルフロアブル、サプロール乳剤、トリフミン乳剤、マネージ乳剤の1,000倍液、アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルの2,000倍液、ポリオキシソールAL水溶剤2,500倍液、チルト乳剤25、ラリー乳剤の3,000倍液のいずれかを発生初期から2～3回10日おきに散布する。 3. クムラス300倍液を散布する。	
黒さび病 (F)	育 苗 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。	1. 育苗中の薬剤防除は予防に重点をおく。 2. 地下芽(うど芽)を用いる。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
黒さび病 (F)	ほ場期間 (夏 ぎ く 8月咲きぎく 9月咲きぎく 秋 ぎ く)	1. 多発ほ場では、連作を避ける。 2. ステンレス 2,000 倍液を散布する。 3. 罹病茎葉は早めに摘み取り、まん延を防止する。	
黒 斑 病 (F)	ほ 場 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。 3. ほ場内の風通しを良くする。 4. ダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液、ポリオキシンAL水溶剤 2,500 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ストロビーフロアブル 2,000～3,000 倍液を散布する。	1. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
うどんこ病 (F)	育 苗 期 間	1. 苗は無病株から採取する	
	ほ 場 期 間	1. 発病が見られたら通風を良くすることに努める。 2. 窒素過剰にならないようにする。 [参考農薬] 1. モレスタン水和剤 2,000～3,000 倍液を散布する。	
斑点細菌病 (B)	生 育 期 間	1. 発病葉は見つけ次第除去する。 2. ほ場衛生の向上に取り組む。 3. ほ場内の風通しを良くする。 4. スターナ水和剤 1,000 倍液を散布する。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	定 植 時	1. オンコル粒剤 1 を 1 株当たり 0.25g 植穴 土壌混和する。 [参考農薬] 1. ガゼット粒剤を 1 株当たり 2 g 株元散布 又は植穴土壌混和する(ただし、10 a 当り 18kg まで)。	1. 軟弱徒長苗、高温乾燥期は、薬害のおそれがあるので使用しない。
	生 育 期 間	1. 挿芽は無病株から選ぶ。 2. オレート液剤 100 倍液、オルトラン水和剤、ハチハチ乳剤、ベストガード水溶剤の 1,000 倍液、アドマイヤーフロアブル 2,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. モスピラン粒剤を 1 株当たり 0.5～1 g、ダントツ粒剤を 1 株当たり 1g、ベストガード粒剤を 1 株当たり 1～2 g、オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg のいずれかを株元散布する。 2. アーデント水和剤 1,000 倍液、スミチオン乳剤 1,000～2,000 倍液、アグロスリン乳剤 2,000 倍液、スカウトフロアブル 2,000～3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. オレートは昆虫の気門を塞いで窒息させ殺虫するので、虫体に直接かかるように 5～7 日間隔で 2 回散布する。 2. ハチハチ、アーデント、アグロスリン、スカウトは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤー、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. アドマイヤーは施設栽培に限る。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アザミウマ類	生 育 期 間	1. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg 株元散布する。 2. アファーム乳剤 1,000 倍液、又はスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍液を散布する。	1. アザミウマ類は、着蕾期から防除を徹底する。 2. スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. アファームは蚕毒及び魚毒に注意する。
ミカンキイロアザミウマ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アーデント水和剤 1,000 倍液、又はカスケード乳剤 2,000 倍液を散布する。	1. アーデントは蚕毒及び魚毒に、カスケードは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ハダニ類	5月下旬～ 9月上旬	1. サンマイトフロアブル 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. カネマイトフロアブル 1,000～1,500 倍液、ピラニカEWの 1,000～2,000 倍液、コテツフロアブル 2,000 倍液、ニッソラン水和剤 2,000～3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 乾燥期に多発する。 2. サンマイト、ピラニカ、コテツは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. サンマイト、コテツは蚕毒に注意する。
オオタバコガ	生 育 期 間	1. プレオフロアブル 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. アファーム乳剤、エスマルクDF、ロムダンフロアブルの 1,000 倍液、フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液、スピノエース顆粒水和剤 2,500～5,000 倍液のいずれかを散布する。	1. オオタバコガの平年の発生時期は5月下旬～10月下旬で、きくでは6月上旬及び8月中旬以降に食害が認められる。この時期にフェロモントラップの成虫発生消長を参考にして、系統の異なる薬剤をローテーションしながら散布する。 2. アファームは蚕毒及び魚毒に、プレオ、エスマルク、ロムダン、スピノエース、フェニックスは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. フェニックスは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。
ハガレセンチュウ	植 付 前	1. 土壌消毒する。 2. 被害葉を摘葉する。 [参考農薬] 1. ガードホープ液剤 3,000 倍液を 1 m ² 当り 2ℓ土壌灌注する。	1. 頂芽繁殖を行う。 2. 降雨時に多い。 3. 連作を避ける。 4. ガードホープは薬液灌注後、1 m ² 当り 10～15ℓ灌注する。
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	植 付 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
コアオカスミカメ	5 月 ～ 9 月	1. 畦畔のヨモギなど雑草を刈り取る。	1. 畦畔のヨモギなどの雑草に寄生が多い。